

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
ASO ポップカルチャー専門学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況.....	3
1. 学校関係者評価の目的と基本方針.....	3
2. 学校関係者評価委員出席者名簿.....	3
3. 学校関係者評価委員会の実施状況.....	4
4. 学校関係者評価委員会の実施方法.....	4
5. 学校関係者評価の評価方法.....	4
II. 学校関係者評価委員会報告.....	5
1. 重点項目について.....	5
2. 基準項目について.....	7

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者等・地域住民などの学校関係者が、ASO ポップカルチャー専門学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏 名	所 属 (役職)	出欠
業界関係者	足立 憲一	株式会社ワコム(アカウントマネージャー)	出席
業界関係者	小禄 卓也	株式会社ナンバーナイン(取締役 CXO)	出席
業界関係者	金子 文雄	株式会社 NAGOMI (代表取締役)	出席
業界関係者	河原 洋	株式会社 studio A-CAT (博多スタジオ 支部長)	出席
業界関係者	久住 太陽	合同会社九十三(代表社員)	出席
業界関係者	鈴木 慎之介	株式会社プロジェクトスタジオ Q (代表取締役社長)	代理出席 (鬼塚 大輔/ デジタル部長)
業界関係者	瀧口 大介	株式会社マトリックス(福岡開発室 室長)	出席
業界関係者	宮迫 靖	株式会社 D・A・G (本部長)	出席
高等学校	松畠 正則	福岡県立玄洋高等学校 (校長)	欠席
地域住民	浦川 美代子	博多駅南 1 丁目 1 区自治会(会長)	出席
卒業生	大輪 健太郎	マンガ・イラスト・CG 科 CG コース 卒業生	出席
保護者等	川口 多恵子	CG 専攻科在校生 保護者等	出席

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2026 年 7 月 8 日 (水) 15:00 ～ 16:00

場 所：麻生塾福岡キャンパス 6 号館 651 教室

(※一部参加者はオンラインで出席)

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

2025 年度の活動実績に対し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。

自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果、課題及び改善策について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

5. 学校関係者評価の評価方法

基準項目の小項目ごとに、自己点検・評価と同じく下記の評価基準によって評価し、基準ごとに自己評価結果が適正であるかどうかを評価した。

自己評価結果に対する学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記している。

また、意見についてもとりまとめて記載している。

評価基準

3：基準を満たしており、特筆すべき取り組みを行っている

2：概ね基準を満たしている

1：基準を満たしておらず改善が必要

Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【重点項目】

独自性の強化

- a) 業界動向に沿った柔軟なカリキュラム編成

新たな価値創出のための挑戦

- a) 留学生、中学生向けのツール作成
- b) 台日イラストコンテスト運営

教育の可視化・効率化

- a) 外部施設での卒業制作展実施
- b) 留学生の就職指導

【取組み状況及び総括（成果と課題）】

<取組み状況>

学生の成長実感

1) これまでも講評会は行われていたが、2025 年度からはあえて「年間スケジュールへの組み込み」を重点項目に掲げた。単なる課題提出で終わらず、定期的な「人に見られる場」を公式に設けることで、プロとして通用する作品の質の追求と制作意欲（モチベーション）の維持を図るとともに、講評会を年間の教育計画に正式に組み込むことで、教員間の指導のムラをなくし、学校全体で学生の成長を管理する体制を強化している。講評会を通じて日常的に作品を磨き上げる習慣をつけることが、約 100 点の作品を一般公開した大型商業施設（ららぽーと）での展示成功につながった。

2) 本コンテストは、2025 年度の重点項目の一つである「独自性の強化」を具体化する取り組みとして運営した。日本と台湾の両国から、約 2,000 名にのぼるエントリー実績があった。この取り組みは、同じく独自性の強化として挙げている「作品講評会の年間スケジュールへの組み込み」や「外部施設での卒業制作展」などと並び、本校の教育活動を学外へ発信し、価値を高めるための重要な活動の一つとなっている。

新たな価値創出のための挑戦

1) 全学科を通じた進路決定率は 100%に達しており、「卒業後に何をすればよいかわからない」という学生を出さない体制を構築している。特にイラストやマンガ分野では、企業就職よりもフリーランスのイラストレーターや漫画家デビューを希望する学生が多いため、数字上の就職率のみを追うのではなく、卒業後も活動を継続できるようなサポート体制（ワークショップの実施や担当編集者付きの促進など）を整えている。マンガ分野の実績としては、出版社への持ち込みツアーの実施や学内での企業添削会の開催により、全学年の 54%に担当編集が付き、専門 1 年生の投稿者率が 84%に達するなど、業界内での活動実績を積み上げる指導を強化している。毎週 1 回開催される就職部会で求人情報や学生の活動状況を共有し、就職担当とクラス担任が密に連携することで、学生個々の志向に合わせたきめ細やかな指導を実施している。

2) 「G-MAP（国際マンガ産業連携人材育成プログラム）」とは、海外で活躍できる国際的なマンガ人材の育成を目指す 5 年計画の委託事業である。文化庁の「文化芸術活動基盤強化基金」に採択された事業で、海外の出版社や教育機関と連携したカリキュラム開発を目的としている。本校の取り組みとしては、2025 年度に世界 5 都市を視察し、海外の出版社との連携先を開拓した。今年度は、視察結果を反映したカリキュラムの叩き台を作成し、アジア諸校との共同アンソロジー制作などの実証的な取り組みを開始する予定である。単なる技術指導にとどまらず、海外の出版事情や文化的な背景の違いを理解し、世界に向けて作品を発信・展開できる能力を養う点に重点を置いている。なお、本取り組みは委員会当日は紹介にとどめ、詳細は別途、委員との個別協議の場で取り扱うこととした。

教育の可視化・効率化

1) 留学生向け日本語勉強会は、留学生の増加に伴い、技術習得だけでなく、就職活動の要となるコミュニケーション能力の向上を目的とした支援策である。留学生は入学時点で日本語能力試験 N2 程度の力を持っているが、実際の授業や就職の場では「喋る壁（コミュニケーションの壁）」に直面することがある。これを解消し、実践的な日本語力を高めて早期の内定獲得につなげることが目的である。2025 年 5 月に開講し、2026 年度からは毎週火曜日の 4 限に定期開催している。単なる座学ではなく、傾聴、グループワーク、プレゼンテーションといったアクティブな活動を通じ、現場で通用するアウトプット能力を磨いている。

2) 「AI STUDIO」は、株式会社 dott との連携により、ポップカルチャー業界で避けられない技術となった AI を教育に取り入れた取り組みである。株式会社 dott と連携協定を締結し、AI で作品を作る手法そのものを教えるのではなく、「AI の活用リテラシー」を向上させることを主眼に置いている。まず、2025 年度にマンガコースにて先行して試行導入した。2026 年度には、対象を全学科・約 200 名へと大幅に拡大して展開している。試行段階では、AI を活用できていた学生が 12 名中 2 名から、ほぼ全員へと劇的に増加した。教材準備などの教員の負担も体感で約半分になるなど、教育の効率化においても顕著な成果が出ている。

<総括（成果と課題）>

2025 年度は、大型商業施設での卒業制作展の開催や「AI STUDIO」の全学科展開、文化庁採択事業「G-MAP」の推進等を通じて、学生の成長実感の醸成や教育の効率化、新たな価値創出において「進路決定率 100%」の維持を含む大きな成果を上げた一方で、授業評価結果の教育改善への確実な反映や留学生向けの多言語ツールの整備、さらには卒業生の具体的な活躍や社会的評価を客観的に把握・公表するためのデータ収集体制の構築が今後の重要な課題となっている。

【委員からのご意見】

- ・卒業生の評価を網羅的に把握するのが難しいという課題に対し、手動のヒアリングだけでなく、ネット上の名前検索やシステムの手法を活用して、今の時代に合った効率的な収集方法を検討してはどうか。
- ・高校生への学生募集において、単に「内定先企業名」を出すだけでなく、卒業生が実際に「どの作品に関わったか」や、「ディレクターなどのどのような役職で活躍しているか」といった実質的な実績を具体的に示すべきではないか。
- ・課題が明記されている（＝100 点満点ではない）状態でも、取り組み自体が行われていれば「評価 2」として妥当なのか。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果：適正

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

学校の教育理念、教育目標（育成人材像）等については明文化し、ホームページ上に情報公開の項目を整え、社会に公表している。本校の理念や目的は法人の理念を基に展開しており、当該年度の事業計画書に掲載し、全教職員で共有している。また、講師会や学校関係者評価委員会でも講師や委員へ周知している。

新入生に対しては、それらを掲載した学生便覧を全員に配布し、オリエンテーションや各ホームルームにて周知、指導するとともに、「GCB 教育」（グローバルシティズン・ベーシック教育、麻生塾独自のキャリア教育プログラム）を通して麻生塾の卒業生としてふさわしい態度や考え方を育むようにしている。

教職員に対しては、学校の教育理念、教育目的および育成人材像を、「事業計画書」に記載し、年初のキックオフ会議（当該年度における学校の運営方針・年度目標について、教職員全員で共有および認識統一を図るための会議）にて共有を図った。また、教職員・非常勤講師へは、一人ひとりに学生便覧を配布し周知を行った。

【課題及びその改善方策】

特になし

【委員の方からのご意見】

委員の方からの意見は特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	2	2
1-1-2	各学科の教育目標（育成人材像）を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	2	2

基準 2 学校運営**学校関係者評価結果： 適正**

- 2-1：学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか
- 2-2：事業計画を作成し、執行しているか。
- 2-3：運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。
- 2-4：人事・給与に関する制度を確立しているか。
- 2-5：情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】**[2 - 1]**

運営方針は法人の理念と学校の理念に基づいて策定され、規定通り運営している。

運営方針・事業計画の全教職員への共有・説明については、学校独自で作成している運用マニュアル「業務 BOOK」を作成し、年初のキックオフ会議（当該年度における学校の運営方針・年度目標について、教職員全員で共有および認識統一を図るための会議）において全体共有を図ると共に、ルールブックとして活用している。

[2 - 2]

運営方針に沿った事業計画を策定し、年初のキックオフ会議（当該年度における学校の運営方針・年度目標について、教職員全員で共有および認識統一を図るための会議）において全体共有を図った。また、教職員のコミュニケーションツールである「Microsoft Teams」において事業計画を保管する場所を設定し、いつでも資料を閲覧できる体制を取っている。

学生支援体制、学生募集、人材育成、出席率、退学率、分野毎の検定・コンテストの目標設定を行い、数値目標を立て管理を行った。執行状況については「分野別報告書」を作成し月次報告として毎月のリーダー会議において、状況の共有および対策の検討を行った。また、募集状況、就職状況についてはサマリーシートでの管理を行い、校長代行が毎月の経営会議にて経過報告と情報共有をしている。部門で集約した情報については、全体に通知して共有を図った。

[2 - 3]

法人としての運営組織や意思決定機関は明文化され、有効に機能している。理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会を隔月開催しており、組織の課題等について合議している。また、各校・各部門の校長代行、部門長以上が情報共有を行う部門長会議など各階層別・目的別で必要な会議体が設計されており、計画通りに開催されている。

学校運営については、校長代行、教務主任を中心に定例会議を行い、その後、分野毎に配置したリーダーを中心に部門会議を開催し、部門内の情報共有と意思決定の場として活用している。各部門内でリーダーによる意思決定が可能な事項に関しては「部門会議」を、他部門に影響し校長代行の意思決定が必要な事項に関しては「リーダー会議」をその場としている。レポートラインについては、学校独自で作成している運用マニュアル「業務 BOOK」にも記載し明確化されており、年初のキックオフ会議にて全体共有されている。

事務職員の能力向上については、担当業務に必要な能力と本人の意欲を鑑みた上で、面談等により目標を設定し研修への参加などの方策を講じている。また、本校の事務職員は学生の就職支援や学生募集等を行っており、企業との面談等で情報や知識を得ている。

[2 - 4]

法人で整備された雇用区分ごとの就業規則、各種人事諸規程及び労使協定に基づき、適切に運営している。これらの規程は、法令を遵守して整備されている。

また、法人の運営方針や労働関連法改正に応じて、規程の見直し・改定を行い、その内容を教職員へ周知し、適切な運用に努めている。

給与については、法人で定められた給与規程（または一部の雇用形態においては就業規則）に基づき、法令を遵守した制度のもとで運用している。これらの規程は法人内の共有フォルダ等を通じて教職員に公開しており、本校においても透明性の確保に努めている。

昇給・昇格制度については、法人で整備された人事制度に基づき運用しており、その内容は教職員に公開している。また、法人の基本方針を踏まえ、社会情勢や物価動向等を勘案し、制度の見直しを適宜行い、公平性及び妥当性の確保に努めている。

教職員の募集・採用については、法人で定められた採用規程に基づき、適切に実施している。採用に当たっては、当該部署の責任者が採用稟議を起案し、求める人物像を明確にした上で選考を行っている。また、法人本部及び関係部門と連携した採用体制のもと、面接から内定判断までを規程に基づき運用している。さらに、選考状況や内定辞退の状況等を踏まえ、採用プロセスの妥当性について検証を行っている。

[2 - 5]

学校法人麻生塾独自の情報システム「麻生塾システム」を活用し、情報管理を図っている。この情報システムは、学校だけではなく、学校法人麻生塾の全部門が使用しており、情報の共有化や一元化が図られている。

学生に周知、連絡すべきことについては、情報発信を一本化して Microsoft Teams による全学生向けの掲示板を作成し運用を行った。これにより情報の内容が均一化し、記録も残り何度でも確認できるため、伝達ミスが減少し学生からの問い合わせも減少した。この掲示板は、緊急連絡、各種申請、検定試験、注意喚起など、学校生活に必要とされる情報を分野毎にまとめている。

教職員同士の情報共有、コミュニケーションのツールとしても Microsoft Teams を利用し、毎日の朝礼については「朝礼通信」として、伝達事項を掲示板に書き込み共有を図った。

【課題及びその改善方策】

[2 - 1]

特になし

[2 - 2]

特になし

[2 - 3]

特になし

[2 - 4]

特になし

[2 - 5]

特になし

【委員の方からのご意見】

[2 - 1]

委員の方からの意見は特になし

[2 - 2]

委員の方からの意見は特になし

[2 - 3]

委員の方からの意見は特になし

[2 - 4]

委員の方からの意見は特になし

[2 - 5]

委員の方からの意見は特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	2	2
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	2	2
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	2	2
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	2	2
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	2	2
2-3-3	運営会議（教職員会議・教員会議等）が定期的に行われているか。	2	2
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	2	2
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	2	2
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	2	2
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	2	2
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	2	2
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	2	2
2-5-1	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	3	3

基準 3 教育活動**学校関係者評価結果： 適正**

3-1：教育理念、教育目標（育成人材像）に沿った教育課程を編成・実施しているか。

3-2：教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

3-3：教育の評価を適切に行っているか。

3-4：成績評価と単位認定を適切に行っているか。

3-5：教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】**[3 - 1]**

教育理念、教育目的および育成人材像に沿ったディプロマ・ポリシーならびにカリキュラム・ポリシーについては役職会（校長代行、主任、事務長による会議）にて決定したものを明文化し、全教職員にて共有している。学生に対しては学生便覧にて、非常勤講師には講師会と学生便覧にて周知している。また、社会に対してはホームページにて公表している。

カリキュラムをはじめとした教育課程全般の検証のために、教育課程編成委員会を年に2回実施し、適切な教育が行われているかについての検討会議を行い、定期的に検証と改善を図っている。

教育課程編成委員会にていただいたご意見は、分野毎のカリキュラム会議で科目間の繋がりや教育目標に適した内容であるかの協議した後、カリキュラムに反映させている。

[3 - 2]

当校では、教育理念である「創造性の追求と人間性の成長」および育成人材像である「業界で活躍し続けられる人材」を実現するため、卒業認定・学位授与の方針を示す「ディプロマ・ポリシー」と、教育課程編成・実施の方針を示す「カリキュラム・ポリシー」を役職会にて策定し、学生便覧や公式ホームページへの掲載を通じて学生へ周知している。また、変化の速い業界のニーズを反映させるため、年2回、企業等の外部委員を招いた「教育課程編成委員会」を開催しているほか、「分野別カリキュラム会議」を通じて業界関係者からの直接的な提言をカリキュラムに反映させる編成体制を構築している。さらに、社会的・職業的自立を支援する教育として、「GCB 教育」や「就職ガイドブック」を活用した支援を行うとともに、大型商業施設での卒業制作展（Departure～出発～）の開催など、成長実感を醸成する機会を創出している。これらに加え、株式会社 dott と連携した「AI STUDIO」の導入による全学科での AI リテラシー教育や、文化庁の採択事業である「G-MAP」を通じた海外の出版社・教育機関との連携による国際的なマンガ人材育成カリキュラムの開発・実施など、時代に即した先進的な教育プログラムを展開している。

[3 - 3]

学生による授業アンケートおよびホームルームクラスアンケートを前期末と後期末に全科目で実施し、管理職が中間・期末の個人面談時に各教員へ結果をフィードバックした。その際、授業とクラス運営に関する評価や改善点を共有し、授業内容や実施方法の改善に取り組んだ。行事や発表会など節目の行事については、別途学生アンケートを取得し、内容の改善点などの振り返りに活用した。

さらに、経験の浅い教員に対しては、授業ミニアンケートを適時活用し、授業の進め方や説明方法などを早期に評価し改善に繋げる仕組みを整えている。また、教員ごとに全担当科目の授業運営状況をまとめた「授業報告書」を月次で提出し、全教員で共有した。これにより、授業進捗の確認や情報共有を行っている。

[3 - 4]

全ての科目で成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準を明確に定め、正試験および正試験に準ずる方法で適切に評価している。評価規定は学生便覧を通じて学生に周知しており、各科目の評価基準についてもシラバスに記載して周知している。

遠隔授業における成績評価・単位認定についても、所轄官庁および法人の基準に則り、適切に運用している。また、各科目の試験や課題内容については、クラスごとに一覧表にまとめ、試験期間前に学生全員へ共有した。

さらに、成績評価に関する具体的な採点基準は、筆記試験や作品課題を含め科目ごとに一覧にまとめ、事前に学生へ周知している。成績評価基準が適切であるかどうか、継続的に確認を行い、課題のレベルや内容の質向上に取り組んでいる。成績については、各学期末に成績評価結果を記載した成績表を保護者等に郵送している。

進級判定および卒業判定は、学校法人麻生塾福岡キャンパスの校長や校長代行が進級判定会議・卒業判定会議を通じて決定している。

[3 - 5]

法令に則り、学校の教育理念や目的の達成に必要な教育課程の種類、分野、学生数を考慮し、必要な教員組織を構築している。採用後は、指導担当者（チューター）を配置し、OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング。実際の職場で業務を通じて学ぶ訓練）を行うことで、指導力の向上と組織への順応を促している。

また、教員の専門性や指導力を向上させるため、企業等が実施する研修参加状況を全体で一元管理するとともに、分野ごとに計画的に参加し、専門分野の実務能力や学生指導力の向上を図った。

さらに、学校行事や委員会など通常授業外の業務についても適切に業務分担を行い、業務の平準化を進め、教職員全体の質の向上に取り組んでいる。月末の「部門報告書」での報告や、月例のリーダー会議を通じて、情報を共有し連携を強化している。

【課題及びその改善方策】

[3 - 1]

特になし

[3 - 2]

特になし

[3 - 3]

各教員ごとの改善項目の洗い出しは実施しているものの、集約シートとして整理できておらず、改善状況の全体把握が十分にできていないことが課題である。また、個々の振り返りシートの様式が統一されておらず、記録の活用に支障が生じている。今後は、教員ごとの改善項目を集約するシートを作成するとともに、振り返りシートの様式を統一し、年度末の振り返り面談において活用することで、授業改善の実効性向上につなげる。

前期末の面談においては、後期開始直前であったことから、授業評価結果のフィードバックよりも後期の目標設定に重点が置かれる状況となり、授業内容及び授業方法の改善に十分に結び付けられていないことが課題である。今後は、前期末に実施した授業評価アンケートの結果について、後期開始前までに常勤教員及び非常勤講師の双方に対してフィードバックを完了し、授業内容及び授業方法の改善につなげる。

[3 - 4]

特になし

[3 - 5]

特になし

【委員の方からのご意見】

[3 - 1]

委員の方からの意見は特になし

[3 - 2]

委員の方からの意見は特になし

[3 - 3]

委員の方からの意見は特になし

〔3 - 4〕

委員の方からの意見は特になし

〔3 - 5〕

委員の方からの意見は特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
3-1-1	教育目標（育成人材像）に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	2	2
3-1-2	教育目標（育成人材像）に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	2	2
3-2-1	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	2	2
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	2	2
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	2	2
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	2	2
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	2	2
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	2	2
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	2	2
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	2	2
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	2	2
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	2	2
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	2	2
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	2	2
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	2	2
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	2	2
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	3	3
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	2	2
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	2	2
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	2	2
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	2	2
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	2	2
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	2	2
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	2	2

基準 4 学修成果**学校関係者評価結果： 適正**

4-1：学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

4-2：卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】**[4 - 1]**

就職率、資格・検定取得率、退学者数の目標値については、事業計画の中で全教職員に周知している。進捗状況は、毎月のクラス運営報告書で各クラスの状況を報告し、学校全体で共有した。

就職率に関しては、週1回の就職部会を実施し、進捗状況の共有を行っている。部会では、求人情報や企業説明会の情報を共有するとともに、学生が受験する際の注意点を確認している。また、就職率向上を目的に、就職担当者と担任が各学生の状況を共有し、連携して就職指導を行った。さらに、必要に応じて就職担当者が面接練習を個人やグループごとに実施している。

資格・検定取得については、分野別会議を中心に取得率向上策を検討・実施するとともに、次年度に向けたカリキュラム会議で、向上策をカリキュラムやシラバスに反映している。

退学防止については、クラス担任が日常的に学生をケアし、出席率の低下など退学の兆候が見られる学生については、分野別会議で対策を協議している。また、リーダーや管理職が担任に協力し、退学防止策を講じている。

さらに、美術展の鑑賞やミュージカル観劇など、学外での活動を増やすことで、学生のモチベーションを維持し、視野を広げる取り組みを積極的に行った。

[4 - 2]

卒業生の社会的評価及び専攻分野におけるキャリア形成への効果について、就職担当職員が企業への聞き取りを行い、継続的に把握している。

また、卒業生及び就職先から得た情報は、週1回開催する就職部会において教職員間で共有し、就職指導及び教育活動の改善に活用している。

【課題及びその改善方策】**[4 - 1]**

特になし

[4 - 2]

当校では、卒業生の活躍や社会的な評価を把握するため、現在は就職担当者が主な就職先企業へ直接ヒアリングを行っているが、主要企業への聞き取りにとどまり、全卒業生を網羅した客観的なデータ収集に至っていないことが課題となっている。この改善に向けて、今後は卒業生が関わった作品や役職（ディレクター等）の詳細を把握するための「卒業生アンケート」の構築やシステムの調査手法の導入を検討しており、こうして体系的に収集した活躍情報を教育課程の改善や入学希望者へのロールモデル提示といった募集広報に活用している。

【委員の方からのご意見】**[4 - 1]**

委員の方からの意見は特になし

[4 - 2]

卒業生の評価を網羅的に把握するのが難しいという課題があるにもかかわらず、取り組みが行われていることをもって基準を満たしている（評価2）としてよいのか。

（回答：自己点検評価は取組みを行う環境が整っているかを評価するものであり、実績の多寡とは別軸の評価となる。また、手動のヒアリングだけでなく、インターネット上の検索やシステムを活用した収集方法の検討を求める意見もあるため、今後の手法検討を進めることとする）。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	2	2
4-1-2	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取組みを行っているか。	2	2
4-1-3	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	2	2
4-1-4	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	2	2
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	2	2

基準 5 学生支援**学校関係者評価結果： 適正**

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

麻生専門学校グループには、グループ各校を支援するために、学校法人麻生塾学生支援グループ及び学生相談室等を設置しており、各校の教職員と連携して、留学生を含む全学生に対して修学支援及び生活支援を行っている。

就職・進路支援については、学内に就職専任スタッフを配置し、担任と連携して求人案内や受験支援を実施している。また、Microsoft Teams 上に就職専任スタッフと対象学生の共有グループを作成し、求人情報や企業説明会の案内を円滑に伝達している。

学生相談体制については、学生相談室を設置し、相談支援を実施している。学生相談室の利用利便性向上を目的に、利用申込方法を記載した案内カードを名札に入れて常時携帯できるようにし、必要時に迅速に申し込める体制を整備している。学生の健康管理については年間計画に基づき健康診断を実施し、結果を記録・保存している。教務と連携し、未受診者及び再検査対象者への受診勧奨を行う体制を確立している。また、法令に基づき結核健康診断実施報告を保健所へ提出している。さらに、結核感染予防の観点から、留学生に対しては入学前ガイダンス時（3 月）に胸部 X 線検査を実施し、早期発見に努める取り組みを定着させている。保健室は 2 室設置し、学生の健康管理体制の充実を図っている。

学生の生活環境への支援については、直営寮・提携寮を完備している。寮監を配置し、定期的に学生の様子を報告してもらう仕組みを取り入れている。入寮・退寮手続きの案内をし、寮費の管理を適切に行っている。Teams を活用し、寮監・学生・学生支援 G の 3 者間で連絡を密にし、協力体制を構築している。

学生の経済的支援については、特待生制度、進級支援制度、学費分割納入制度及び高等教育の修学支援新制度（無償化認定）等の各種支援制度を整備し、多くの学生が活用している。

さらに、各種支援金制度や奨学金、課外活動、学外イベントの案内については、案内資料及び Microsoft Teams の学生ポータルを活用し、確実な周知を図った。卒業生に対しては、再就職相談や再就職の斡旋等を行う専用サイトを設け、継続的なサポートを提供している。

また、担任教員は学生及び保護者と適宜面談を実施し、必要に応じて管理職が同席している。

【課題及びその改善方策】

特になし

【委員の方からのご意見】

学生相談室の設置など、組織で学生支援体制を構築していることを評価する。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	2	2
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	2	2
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	2	2
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3	3
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	3	3
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	2	2

基準 6 教育環境**学校関係者評価結果： 適正**

6-1：教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

6-2：教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

[6 - 1]

施設および設備については、設置基準を遵守し、教育理念、教育目標（育成人材像）に沿った教育に必要な内容を整備し、適切に管理している。

また、設備整備については法人の総務部門と連携し、年度ごとに教室の見直しや設備の補充・修繕を行い、教育環境の維持に努めている。さらに、教育上必要な機材・備品についても計画的に整備している。

ソフトウェアライセンスについては、数量管理が必要なものについて資産管理ソフトウェアを導入し、適切に管理している。また、Microsoft 関連のライセンスについては包括ライセンス契約を締結することで、効率的な運用を行っている。

加えて、自宅でオンライン授業を受講するための推奨環境を資料化し、新入生向けの入学説明資料に同封して郵送することで、事前に周知している。

図書館機能については、麻生専門学校グループ福岡キャンパスの共用施設として図書室及び図書コーナーを設置し、職員配置、開館時間、閲覧環境及び情報検索設備を整備している。

また、図書管理台帳を作成し、規程に基づき図書の登録・点検・廃棄等の管理を行っており、図書館サービスが適切に機能していることを確認している。

[6 - 2]

学校施設の安全管理については、校長代行を中心とした組織体制を整備し、防災および防犯設備の定期的な点検を実施している。関連機器の点検報告書については適切に保存・管理を行うとともに、法定点検や設備点検の際には可能な限り担当者が立ち会い、現地の状況確認に努めている。また、設備に安全上の問題が発生した際は、総務の問い合わせ窓口を起点として迅速に専門業者と連携できる体制を構築し、運用の徹底を図っている。

防災対策に関しては、全教室および共用部への避難経路掲示により、学生・教職員・非常勤講師への周知を徹底している。避難訓練は火災および地震の両方を想定して全館放送を活用し実施した。特に 2024 年度の訓練が 11 月実施であったことを踏まえ、早期周知の重要性の観点から、次年度以降は 4 月初旬（4 月 4 日）に実施時期を早めるなど、安全意識の早期定着を図っている。さらに、大雨や台風などの災害時には、Microsoft Teams を活用した迅速な指示体系を確立し、学生の登下校および学校生活における安全確保に配慮している。

学外実習等の教育体制については、インターンシップにおける各種手続き書類、保険加入、報告書類等のフォーマットを整備した。これに基づき、学生が安全かつ円滑に実習に取り組めるよう、適切な指導および管理体制を維持している。

【課題及びその改善方策】

[6 - 1]

特に課題はないが、校内の施設および設備については、定期点検を実施し、不備を早期に発見することで、適切な維持・管理に努める。教育機材などの管理については、台帳を整備し、適切に管理・運用する。

[6 - 2]

特に課題はないが、避難訓練の実施時期については、次年度以降 4 月初旬に前倒しし、安全意識の早期定着に努める。

【委員の方からのご意見】

〔6 - 1〕

法人として、組織で学生の教育環境を整備されていると評価する。

〔6 - 2〕

大雨などの自然災害が増加しているため、学生の安全確保を引き続き徹底してください。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	2	2
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	2	2
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	2	2
6-2-1	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	2	2
6-2-2	定期的に防災訓練を実施しているか。	3	3
6-2-3	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	2	2

基準 7 学生募集**学校関係者評価結果： 適正**

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

本校は、教育目標（育成人材像）に基づき策定したアドミSSION・ポリシーを全教職員に周知するとともに、学生募集要項および公式ホームページを通じて広く社会に公表している。教育成果については、パンフレットやウェブサイトにおいて卒業後の就職・進路実績を中心に情報を公開し、入学希望者へ正確な情報提供を行っている。

学生募集および入学者選抜においては、募集要項に選抜方法を明示し、公正かつ適切な実施を徹底している。入学願書の受付から選抜試験の運営に至るまで、麻生塾システムによる一元管理を行い、総務・保守部門と連携した適正な運用体制を構築している。毎年度、事前に実施体制の検証を行うとともに、願書受付マニュアルの整備により、事務手続きの統一性を図っている。

入学者選抜の実施にあたっては、明確な選抜基準を定め、オンラインと対面の両方に対応した体制を整えている。試験問題の作成、教室・備品の確保、運営担当者の配置を計画的に進め、役割別の運営マニュアルに基づいた事前打ち合わせを実施することで、試験当日の公正性と正確性を確保している。また、入学後のミスマッチを防止する観点から、事前の学科説明を受けていない志願者に対しては、選抜時に別途ガイダンスを実施する等の配慮を行っている。

校納金については、適切な入学金および授業料を設定している。特に教材費に関しては、各学科のカリキュラムに合致した内容であるかを教務部で精査・協議し、妥当性と透明性を確認したうえで決定している。

【課題及びその改善方策】

留学生の入学増加に対応するため、留学生向けの学校説明ツールの作成を行っていく必要がある。

【委員の方からのご意見】

高校生への学生募集において、単に内定先企業名を示すだけでなく、卒業生が実際にどの作品に関わったか、どのような役職（ディレクター等）で活躍しているかといった実質的な実績を具体的に示すべきではないか（基準 4-2 の議論に関連）。

（回答：内定実績の紹介は学生募集のフックとして活用しているが、卒業後の実質的な活躍状況までは網羅的に発信できていないことはご指摘のとおりであり、今後の情報収集体制の整備とあわせて検討することとする）。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミSSION・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表しているか。	2	2
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	2	2
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	2	2
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	3	3
7-1-5	校納金（学生納付金）等は妥当なものとなっているか。	2	2

基準 8 財務**学校関係者評価結果： 適正**

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えているといえる。

予算計画は、学校運営計画に即した編成を行っている。予算執行についても、計画に基づき適切に執行されているかどうか確認を行い管理している。

また、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。

なお、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を公開している。

【課題及びその改善方策】

特になし

【委員の方からのご意見】

委員の方からの意見は特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	2	2
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	2	2
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	2	2
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	2	2

基準 9 法令遵守**学校関係者評価結果：** 適正

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

法令および専修学校設置基準については、法人の人事部門や学事部門等と協議し、職業実践専門課程および文部科学省専門課程認定校の基準と併せて遵守している。

教育環境に関しては、担当部門と協議のうえ、教室設備の見直しや教員配置の確認を行っている。

また、関連法令が新設・改定・変更された場合は、法人本部の助言と協力を受けながら適切に運営を行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし

【委員の方からのご意見】

委員の方からの意見は特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	2	2
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	2	2

基準 10 内部質保証**学校関係者評価結果： 適正**

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

学校教育および学校運営の質を維持・向上させるため、自己点検・評価の重要性を組織全体で共有している。本年度は、管理職のみならず一般教職員一人ひとりに高い評価意識を醸成する必要があるとの判断から、全教職員による自己点検・評価を実施した。このプロセスを通じて、現場の視点を反映した組織的な課題抽出と改善活動を推進している。

自己点検・評価の実施体制については、麻生塾全体で定期的な評価項目の見直しを適宜進めており、各年度の実施に際しては具体的な留意点や改善策を提示することで、評価の客観性と実効性を担保している。

また、職業実践専門課程の認定基準に基づき「学校関係者評価委員会」を適切に開催している。外部委員からの多角的な意見を教育活動の検証に反映させ、学校運営の質的改善に向けた継続的な取り組みを行っている。

これらの自己点検・評価結果および学校関係者評価結果については、本校公式ホームページにて速やかに公表している。これにより、教育情報の透明性を確保し、社会に対する説明責任を適切に果たしている。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、自己点検・評価の評価項目を部門全体に共有し、日常業務として取り組む必要性を引き続き周知する。

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	3	3
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	2	2
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	2	2
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	2	2
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	2	2

基準 11 社会貢献・地域貢献**学校関係者評価結果： 適正**

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

本校は、学校特性を活かし、福岡県立美術館と連携して地域の芸術活動を醸成する地域貢献活動として作品展示を行った。その後も、美術館鑑賞などの行事に繋がり、教育効果の向上にも寄与した。

また、地域の高等学校と連携し、高校生を対象に学校教育内容の特徴を活かした体験授業を実施し、職業理解を深める場を提供している。

学生のボランティア活動については、学校関係者評価委員会の中で自治体等の意見を聴取し、学生を募って学校近隣の公園の清掃活動を地域住民の方々と一緒に実施した。

その他、留学生による地域のイベントスタッフとしてのボランティア活動に参加する事ができ、留学生にとっても日本文化に触れる機会となった。

【課題及びその改善方策】

特になし

【委員の方からのご意見】

公園清掃の参加ありがとうございました。地域住民の方々も学生たちと清掃活動を通じて交流でき、非常に良い機会になりました。今年度も引き続き、公園清掃にご参加ください。（地域住民の委員の方のご意見）

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	3	3
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	2	2